

女子美術大学創立100周年記念棟落成記念展

日本近代洋画への道

山岡コレクションを中心に



五島義松 《人形の着物》 1883年

2001年10月26日金—11月25日日 女子美アートミュージアム

午前11時～午後5時(入館は4時30分まで) 11月12日(日)休館 神奈川県相模原市麻溝台1900 女子美術大学相模原キャンパス内 電話042-778-6111(代)

主催=女子美術大学 協力=財団法人日動美術財団 後援=神奈川県/相模原市/相模原市教育委員会/神奈川新聞社

入場料=一般300円/学生・生徒・児童(大人同伴)無料

〈公開フォーラム・日本近代洋画への道/10月28日(日)午後1時30分～4時/224教室(2号館2階)/共催:明治美術学会〉

〈ギャラリートーク/11月11日(日)・18日(日)午後2時より〉

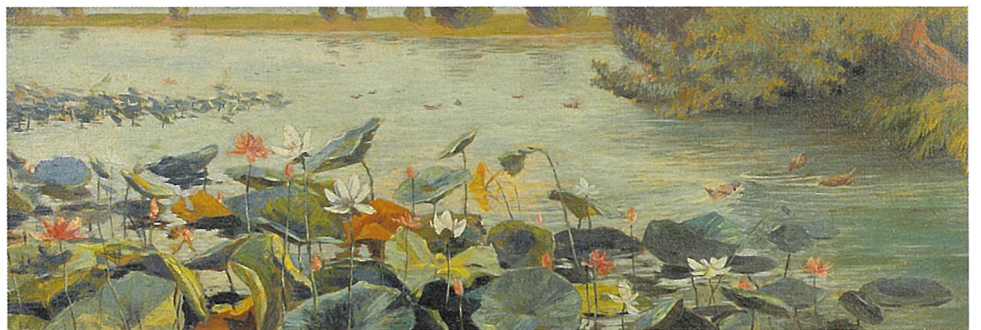




川村清雄 《ベニス風景》

メディアや価値観の多様化により、ますますの発展が期待される21世紀美術。一方で不透明な時代への不安から、社会の様々な分野でみずからの足元を見つめ直す、いわば原点回帰が叫ばれ、とりわけ美術界では、「美術」という言葉が明治初年に西欧概念の翻訳語として生まれたことの意味を問うべく、明治美術に高い関心が寄せられています。

本学創立100周年を記念して開館する女子美アートミュージアムでは、江戸末期から昭和初期にいたる西洋画の一大コレクションとして近時衆目を集めている「山岡コレクション」を中心に、初期洋画の秀作約140点を展示し、日本近代洋画誕生の軌跡をたどります。日本洋画の父とも称される高橋由一をはじめ、ラグーザ玉ら女性画家、最後の將軍徳川慶喜など、幕末明治の激動の時代、それまでの伝統絵画にはない迫真の写実表現や高い実用性を備えた油彩画にいち早く注目し、少ない資料を頼りに独学で、また直接渡欧して技術を磨き、日本美術界に新風を吹き込んだ先駆的画家60余名の画業を紹介するものです。作品に込められた作者のひたむきな態度や、手探りの中から新しい絵画を作り出そうと奮闘した情熱に思いを致し、今後の未来を切り開く指標となれば幸いです。



ラグーザ玉 《睡蓮池》



青木 繁 《二人の少女》1909年



高橋由一 《鮭図》1879-80年



和田英作 《田園風景》1897年頃



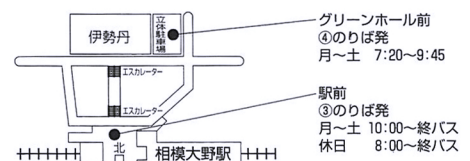
小林鍾吉 《舞妓図》1909年

女子美アートミュージアム

神奈川県相模原市麻溝台1900 電話042-778-6111(代)
女子美術大学相模原キャンパス内
<http://www.joshibi.ac.jp>

交通案内

小田急線「相模大野」駅よりバス「女子美術大学」行約20分
*「女子美術大学」行バス乗り場は時間帯及び曜日によって異なります



JOSHIBI ART MUSEUM